



iStockphoto/Thinkstock

# これからの「正義」の話をしよう いまを生き延びるための哲学



著者：マイケル・サンデル著、  
鬼澤 忍訳  
価格：2,415 円  
単行本：384 ページ  
出版社：早川書房  
(2010/5/22)  
評点（5 点満点）  
総合 革新性 明瞭性 応用性  
3.8 4.0 3.5 4.0

## ■ 推奨ポイント

1人を殺せば5人が助かる状況があったとしたら、その1人を殺すべきだろうか？ 金持ちに高い税金を課し、貧しい人びとに再分配するのは公正なことだろうか？ 前の世代が犯した過ちについて、私たちに償いの義務はあるのだろうか？

本書で著者マイケル・サンデル氏はこのように「正義とは何か」について考えさせられる問いを投げかけてくる。これらは全て、正解はないが決断を迫られるものばかりだ。そして私たちの道徳観や倫理観に鋭く訴えてくる。

無論、本書はこうした正解があるのか分からぬ問いを並べただけの本ではない。政治哲学をこれほど分かりやすく説明してくれる書籍は貴重であろう。アリストテレスからカントやロールズといった古今の哲学者の主張を、様々な問い合わせを通じて解明するなかで、単に多数派を重視するとか、自由であることが最重要であるといった考えには欠陥があることが分かるはずだ。ならば私たちが求めるべき正義とは何か。それをどのように政治に活かせばよいのか。哲学という学問は机上の空論では終わらない。

本書はハーバード大学史上空前の履修者数を記録したサンデル氏の超人気講義をもとにしたベストセラーだ。ハイライトでは語りきれていない内容も素晴らしい、また考えさせられるものばかりである。ぜひ本書

るかに高い価格設定を行い、多  
くの市民がこれを非難した。  
ところが、自由市場を支持す  
る者は、値段が高くなれば多く  
の売り手が参入し、復興が早く  
なるとして、自由市場に干渉す  
べきでないと唱える。彼らに言  
わせれば、価格は個人が自由に  
つけられるもので、公正な価格  
など存在しないのだ。また一方  
で、便乗値上げは単なる幸福と

くの市民がこれを非難した。  
ところが、自由市場を支持す  
る者は、値段が高くなれば多く  
の売り手が参入し、復興が早く  
なるとして、自由市場に干渉す  
べきでないと唱える。彼らに言  
わせれば、価格は個人が自由に  
つけられるもので、公正な価格  
など存在しないのだ。また一方  
で、便乗値上げは単なる幸福と

禁制法の問題で見た三つの觀  
点、つまり幸福の最大化、自由  
の尊重、美德の促進、が存在す  
る。これらの理念はそれぞれ、  
正義について異なる考え方を示  
しており、それぞれに強みと弱  
みが存在する。本書ではこの幸

福、自由、美德という三つの考  
え方について見てみよう。ジエ  
レミー・ベンサムが確立した功  
利主義の中心概念は、道德の至  
高の原理は幸福、すなわち苦痛  
に対する快楽の割合を最大化す  
ることだというものだ。ベンサ

## 正義の意味を探る三つのアプローチ

## ハイライト

正しいことをする

二〇〇四年夏に発生したハリ  
ケーン・チャーリーが通り過ぎ

を手に取ってこの講義にご参加いただきたい。(苅田)

## 重要ポイント

- 正義の意味を探るアプローチには、①幸福の最大化、②自由の尊重、③美德の促進、の三つの観点が存在する。
- 功利主義の道徳原理は幸福、すなわち苦痛に対する快楽の割合を最大化することである。この考え方の弱みは、満足の総和だけを気にしてしまうため、個人を踏みつけにしてしまう場合があることだ。
- リバタリアンが主張する自己所有権が認められれば、臓器売買や自殺帮助などの非道徳的行為もすべて容認されることになってしまう。
- われわれが自らの善について考えるには、自分のアイデンティティが結びついたコミュニティの善について考える必要がある。われわれは道徳的・宗教的信念を避けるのではなく、もっと直接的にそれらに注意を向けるべきだ。

か自由とかの話ではなく、不道徳なものとして反対する人もいる。この便乗値上げをめぐる論争は、道徳と法律に関する難問を提起している。商品やサービスの売り手が自然災害に乘じ、市場でつく価格であればいくらでも請求することは間違っているのだろうか。売り手と買い手が持つ取引の自由に介入することになつても、法律で便乗値上げを禁止すべきなのだろうか。これらの問題は、個人がお互いにどう扱うべきか、法律はいかに組み立てられるべきかといふ点、つまり「正義」に関する問題である。正義の意味を探るアプローチには、便乗値上げ

かに立たれるべきかといふ点、つまり「正義」に関する問題である。正義の意味を探るアプローチには、便乗値上げを禁止すべきなのだろうか。これらの問題は、個人がお互



最大幸福原理——功利主義

他の命を犠牲にしてもよい

か

まずは幸福の最大化という考  
え方について見てみよう。ジエ  
レミー・ベンサムが確立した功  
利主義の中心概念は、道徳の至  
高の原理は幸福、すなわち苦痛  
に対する快楽の割合を最大化す  
ることだというものだ。ベンサ

ムによれば、正しい行ないとは、快樂を生み、苦痛を防ぐもの（＝「効用」）を最大化するものである。

しかし、功利主義の弱みの一つは個人の権利を尊重しないことだ。満足の総和だけを気にするため、個人を踏みつけにしてしまう場合がある。

一八八四年、四人のイギリス人の船乗りが乗っていた船が、南大西洋の沖合で嵐に遭つて沈没した。四人は救命ボートで脱出したが、助かつたのは三人だつた。三人は難用係の一人を食料にすることで命をつないだ。彼らは、経済効率の名においてではなく人間の自由の名において、制約のない市場を支持し、「安全のためにシートベルト着用を義務づける法律」のようだ。パトーナリズム、売春や同性愛の禁止といった道徳的法律、富裕者への課税などの所得や富の再分配を拒否する。



iStockphoto/Thinkstock

のだ。イギリスに戻ると三人は逮捕され起訴されたが、難用係を殺さなければ四人全員が死んでいた。功利主義の観点から見れば、四人が死ぬより一人が犠牲になつたほうが望ましいということになる。

私は私のものか？——リバタリアニズム（自由至上主義）

自由はどこまで容認される

続いて、正義を自由に結びつけるさまざまな理論を取り上げて検討してみよう。

リバタリアンの中心的主張は、どの人間も自由への基本的権利を有しているというものだ。

カントとロールズの哲学

イマヌエル・カントとジョン・ロールズも正義とは自由の尊重と考えた。

カントは、自由とは自律的

ことであると考えた。自分

が道德法則を望むとき、單に偶

の言う「自律的である」という

こと）、個人的利害や愛着から一步距離を置き、純粹で実践的な理性の主として法則を望むものだとした。

ロールズはカントの自律的

心と利益を脇に置き、無知の

ベールに覆われたまま選ぶとし

たら、どんな正義の原理に同意

するかと思考した。

彼らの発想の共通点は、いず

れも道徳的行為者を独自の目的

や愛着から独立した存在と考え

ている点だ。自分の役割やアイ

デンティティ、つまり自分を世

界のなかに位置づけ、それぞれ

の人となりを形作っているものを考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

われわれは先祖の罪を償うべきだろうか。ナチス・ドイツの

政府による富の再分配に反対

する背景は、リバタリアンの持つ自己所有権という概念である。自分が自分を所有しているなら、自分の労働やその成果も所有しているのであるから、政

府が強制的に所得の一部を徴収されていることになつてしまふ、という理屈だ。

しかし、その考え方の含意するところすべてが簡単に容認されるわけではない。臓器を売買したり、患者の自殺を帮助したり、合意の上で食人したりすることとは、自己所有権が認められるのであれば、すべて容認されることになつてしまふ。

デンティティ、つまり自分を世界のなかに位置づけ、それぞれの人となりを形作っているもの

を考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

カントは、自由とは自律的

ことであると考えた。自分

が道德法則を望むとき、單に偶

の言う「自律的である」という

こと）、個人的利害や愛着から一步距離を置き、純粹で実践的な理性の主として法則を望むものだとした。

ロールズはカントの自律的

心と利益を脇に置き、無知の

ベールに覆われたまま選ぶとし

たら、どんな正義の原理に同意

するかと思考した。

彼らの発想の共通点は、いず

れも道徳的行為者を独自の目的

や愛着から独立した存在と考え

ている点だ。自分の役割やアイ

デンティティ、つまり自分を世

界のなかに位置づけ、それぞれ

の人となりを形作っているものを考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

われわれは先祖の罪を償うべきだろうか。ナチス・ドイツの

政府による富の再分配に反対

する背景は、リバタリアンの持つ自己所有権という概念である。自分が自分を所有しているなら、自分の労働やその成果も所有しているのであるから、政

府が強制的に所得の一部を徴収されていることになつてしまふ、という理屈だ。

しかし、その考え方の含意するところすべてが簡単に容認されるわけではない。臓器を売買したり、患者の自殺を帮助したり、合意の上で食人したりすることとは、自己所有権が認められるのであれば、すべて容認されることになつてしまふ。

デンティティ、つまり自分を世界のなかに位置づけ、それぞれの人となりを形作っているもの

を考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

カントは、自由とは自律的

ことであると考えた。自分

が道德法則を望むとき、單に偶

の言う「自律的である」という

こと）、個人的利害や愛着から一步距離を置き、純粹で実践的な理性の主として法則を望むものだとした。

ロールズはカントの自律的

心と利益を脇に置き、無知の

ベールに覆われたまま選ぶとし

たら、どんな正義の原理に同意

するかと思考した。

彼らの発想の共通点は、いず

れも道徳的行為者を独自の目的

や愛着から独立した存在と考え

ている点だ。自分の役割やアイ

デンティティ、つまり自分を世

界のなかに位置づけ、それぞれ

の人となりを形作っているものを考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

われわれは先祖の罪を償うべきだろうか。ナチス・ドイツの

政府による富の再分配に反対

する背景は、リバタリアンの持つ自己所有権という概念である。自分が自分を所有しているなら、自分の労働やその成果も所有しているのであるから、政

府が強制的に所得の一部を徴収されていることになつてしまふ、という理屈だ。

しかし、その考え方の含意するところすべてが簡単に容認されるわけではない。臓器を売買したり、患者の自殺を帮助したり、合意の上で食人したりすることとは、自己所有権が認められるのであれば、すべて容認されることになつてしまふ。

デンティティ、つまり自分を世界のなかに位置づけ、それぞれの人となりを形作っているもの

を考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

カントは、自由とは自律的

ことであると考えた。自分

が道德法則を望むとき、單に偶

の言う「自律的である」という

こと）、個人的利害や愛着から一步距離を置き、純粹で実践的な理性の主として法則を望むものだとした。

ロールズはカントの自律的

心と利益を脇に置き、無知の

ベールに覆われたまま選ぶとし

たら、どんな正義の原理に同意

するかと思考した。

彼らの発想の共通点は、いず

れも道徳的行為者を独自の目的

や愛着から独立した存在と考え

ている点だ。自分の役割やアイ

デンティティ、つまり自分を世

界のなかに位置づけ、それぞれ

の人となりを形作っているものを考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

われわれは先祖の罪を償うべきだろうか。ナチス・ドイツの

政府による富の再分配に反対

する背景は、リバタリアンの持つ自己所有権という概念である。自分が自分を所有しているなら、自分の労働やその成果も所有しているのであるから、政

府が強制的に所得の一部を徴収されていることになつてしまふ、という理屈だ。

しかし、その考え方の含意するところすべてが簡単に容認されるわけではない。臓器を売買したり、患者の自殺を帮助したり、合意の上で食人したりすることとは、自己所有権が認められるのであれば、すべて容認されることになつてしまふ。

デンティティ、つまり自分を世界のなかに位置づけ、それぞれの人となりを形作っているもの

を考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

カントは、自由とは自律的

ことであると考えた。自分

が道德法則を望むとき、單に偶

の言う「自律的である」という

こと）、個人的利害や愛着から一步距離を置き、純粹で実践的な理性の主として法則を望むものだとした。

ロールズはカントの自律的

心と利益を脇に置き、無知の

ベールに覆われたまま選ぶとし

たら、どんな正義の原理に同意

するかと思考した。

彼らの発想の共通点は、いず

れも道徳的行為者を独自の目的

や愛着から独立した存在と考え

ている点だ。自分の役割やアイ

デンティティ、つまり自分を世

界のなかに位置づけ、それぞれ

の人となりを形作っているものを考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

われわれは先祖の罪を償うべきだろうか。ナチス・ドイツの

政府による富の再分配に反対

する背景は、リバタリアンの持つ自己所有権という概念である。自分が自分を所有しているなら、自分の労働やその成果も所有しているのであるから、政

府が強制的に所得の一部を徴収されていることになつてしまふ、という理屈だ。

しかし、その考え方の含意するところすべてが簡単に容認されるわけではない。臓器を売買したり、患者の自殺を帮助したり、合意の上で食人したりすることとは、自己所有権が認められるのであれば、すべて容認されることになつてしまふ。

デンティティ、つまり自分を世界のなかに位置づけ、それぞれの人となりを形作っているもの

を考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

カントは、自由とは自律的

ことであると考えた。自分

が道德法則を望むとき、單に偶

の言う「自律的である」という

こと）、個人的利害や愛着から一步距離を置き、純粹で実践的な理性の主として法則を望むものだとした。

ロールズはカントの自律的

心と利益を脇に置き、無知の

ベールに覆われたまま選ぶとし

たら、どんな正義の原理に同意

するかと思考した。

彼らの発想の共通点は、いず

れも道徳的行為者を独自の目的

や愛着から独立した存在と考え

ている点だ。自分の役割やアイ

デンティティ、つまり自分を世

界のなかに位置づけ、それぞれ

の人となりを形作っているものを考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

われわれは先祖の罪を償うべきだろうか。ナチス・ドイツの

政府による富の再分配に反対

する背景は、リバタリアンの持つ自己所有権という概念である。自分が自分を所有しているなら、自分の労働やその成果も所有しているのであるから、政

府が強制的に所得の一部を徴収されていることになつてしまふ、という理屈だ。

しかし、その考え方の含意するところすべてが簡単に容認されるわけではない。臓器を売買したり、患者の自殺を帮助したり、合意の上で食人したりすることとは、自己所有権が認められるのであれば、すべて容認されることになつてしまふ。

デンティティ、つまり自分を世界のなかに位置づけ、それぞれの人となりを形作っているもの

を考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

カントは、自由とは自律的

ことであると考えた。自分

が道德法則を望むとき、單に偶

の言う「自律的である」という

こと）、個人的利害や愛着から一步距離を置き、純粹で実践的な理性の主として法則を望むものだとした。

ロールズはカントの自律的

心と利益を脇に置き、無知の

ベールに覆われたまま選ぶとし

たら、どんな正義の原理に同意

するかと思考した。

彼らの発想の共通点は、いず

れも道徳的行為者を独自の目的

や愛着から独立した存在と考え

ている点だ。自分の役割やアイ

デンティティ、つまり自分を世

界のなかに位置づけ、それぞれ

の人となりを形作っているものを考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

われわれは先祖の罪を償うべきだろうか。ナチス・ドイツの

政府による富の再分配に反対

する背景は、リバタリアンの持つ自己所有権という概念である。自分が自分を所有しているなら、自分の労働やその成果も所有しているのであるから、政

府が強制的に所得の一部を徴収されていることになつてしまふ、という理屈だ。

しかし、その考え方の含意するところすべてが簡単に容認されるわけではない。臓器を売買したり、患者の自殺を帮助したり、合意の上で食人したりすることとは、自己所有権が認められるのであれば、すべて容認されることになつてしまふ。

デンティティ、つまり自分を世界のなかに位置づけ、それぞれの人となりを形作っているもの

を考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

カントは、自由とは自律的

ことであると考えた。自分

が道德法則を望むとき、單に偶

の言う「自律的である」という

こと）、個人的利害や愛着から一步距離を置き、純粹で実践的な理性の主として法則を望むものだとした。

ロールズはカントの自律的

心と利益を脇に置き、無知の

ベールに覆われたまま選ぶとし

たら、どんな正義の原理に同意

するかと思考した。

彼らの発想の共通点は、いず

れも道徳的行為者を独自の目的

や愛着から独立した存在と考え

ている点だ。自分の役割やアイ

デンティティ、つまり自分を世

界のなかに位置づけ、それぞれ

の人となりを形作っているものを考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

われわれは先祖の罪を償うべきだろうか。ナチス・ドイツの

政府による富の再分配に反対

する背景は、リバタリアンの持つ自己所有権という概念である。自分が自分を所有しているなら、自分の労働やその成果も所有しているのであるから、政

府が強制的に所得の一部を徴収されていることになつてしまふ、という理屈だ。

しかし、その考え方の含意するところすべてが簡単に容認されるわけではない。臓器を売買したり、患者の自殺を帮助したり、合意の上で食人したりすることとは、自己所有権が認められるのであれば、すべて容認されることになつてしまふ。

デンティティ、つまり自分を世界のなかに位置づけ、それぞれの人となりを形作っているもの

を考慮しないのである。

たがいに負うものは何か？

カントは、自由とは自律的

ことであると考えた。自分

が道德法則を望むとき、單に偶

の言う「自律的である」という

こと）、個人的利害や愛着から一步距離を置き、純粹で実践的な理性の主として法則を望むものだとした。

ロールズはカントの自律的

心と利益を脇に置き、無知の

ベールに覆われたまま選ぶとし

たら、どんな正義の原理に同意

するかと思考した。

彼らの発想の共通点は、いず

れも道徳的行為者を独自の目的



iStockphoto/Thinkstock

別な責任、仲間との連帯、村や  
コミュニティや国への忠誠、愛  
国心、自己や同胞に感じる誇り  
と恥、兄弟や子としての忠誠。

こうした連帯の要求なしには、  
生きることも、人生の意味を理  
解することも難しい。こうした  
要求は、物語る存在、位置ある  
自己としてのわれわれの本性を  
反映しているのである。

ホロコーストや日本による従軍  
慰安婦問題など、公式謝罪をめ  
ぐる議論が盛んになつていて  
が、国家は歴史上の過ちを謝罪  
すべきだろうか。

公式謝罪に対する原理的反対

は自分がすることにのみ責任を  
負い、他人の行為にも、自分の  
力の及ばない出来事にも責任は  
ないという考え方だ。しかしサ  
ンデルは、そうした自由の概念  
には欠陥があると考える。われ  
われは、選択とは無関係な理由  
で連帯や成員の責務を負うこと  
があるからだ。

家族や同胞がたがいに負うこと

正義と共に通す  
(★Most Valuable Part)

## ケネディとオバマの真逆の演説

こうした道徳的行為の物語的  
な考え方が説得力を持つとしよ  
う。そうすれば、自らの善につ  
いて考えるのは、自分のアイデ  
ンティティが結びついたコミュニ  
ティの善について考える必要  
があり、そうすれば中立性を求  
めるのは間違つているかもしれ  
ない。リベラル派の政治理論は、  
政治と法律を道徳的・宗教的な  
賛否両論から切り離すための試  
みとして生まれた。しかし、こ  
の意図が成就することはない。  
正義と権利をめぐり白熱した議  
論が繰り広げられている問題の  
多くは、道徳的・宗教的問題と  
とりあげずには論じられない。

ケネディの演説は反カトリックの偏見を和らげるだけでは  
なく、リベラル派の中立の構想、  
すなわち政府は道徳・宗教問題  
に関して中立で、個人が自由に  
自分なりの善良な生活の構想を  
選べなければならぬという哲  
学が反映されていた。一九七一年にはロールズがこの構想を哲  
学的に擁護している。



Hemera Technologies/Photos.com/Thinkstock

一九六〇年、民主党の大統領候補でカトリック教徒のジョン・F・ケネディは、信仰は私的な事柄であり、公的責任とは何の関係もないと言った。四六年後の二〇〇六年、同じく民主党のバラク・オバマは、党の大統領候補に指名される直前、政治における宗教の役割に関してまたたく異なる演説をした。オバマは宗教と政治論議の関連性を肯定する持論を展開したの

しかし、一九八〇年のロナルド・レーガンの大統領当選以降、キリスト教保守派の声が強くなり、ポルノや妊娠中絶や同性愛の法的規制を打ち出した共和党に対する、政治には道徳的・宗教的判断が入るべきではないとするリベラル派はこれらの問題について議論することができなくなってしまう不利な事態に陥つてしまい、民主党は雌伏の時代を過ごすことになる。そうした背景から、オバマは国内に広まる道徳的・精神的渴望に対して応えるべく、ケネディとはまたたく異なる演説をしたのだ。

しかし、一九八〇年のロナルド・レーガンの大統領当選以降、キリスト教保守派の声が強くなり、ポルノや妊娠中絶や同性愛の法的規制を打ち出した共和党に対する、政治には道徳的・宗教的判断が入るべきではないとするリベラル派はこれらの問題について議論することができなくなってしまう不利な事態に陥つてしまい、民主党は雌伏の時代を過ごすことになる。そうした背景から、オバマは国内に広まる道徳的・精神的渴望に対して応えるべく、ケネディとはまたたく異なる演説をしたのだ。

中立性と選択の自由について、道徳的・宗教的議論に踏み込まないということは不可能なのである。



iStockphoto/Thinkstock

政治とはどんなものだろうか。サンデルは以下の四点を挙げている。

一つ目は「市民権、犠牲、奉仕」。公正な社会には強いコミュニティ意識が求められるとすれば、全体への配慮、共通善への献身を市民のうちに育てる方法、すなわち公民教育の方法を見つけなければならない。

二つ目は「市場の道徳的限界」。市場は生産的活動を調整する有用な道具であるが、兵役や出産などの社会慣行について、市場の評価基準を持ち込むべきでないものもあるため、われわれは市場の道徳的限界について公に論じる必要がある。

## 共通善に基づく政治

オバマは一〇〇八年の大統領選挙期間中、道徳や精神性を希求する政治をはつきりと打ち出した。彼の真意が、共通善に基づく新たな政治へとうまく転換されるかどうかは予断を許さない。

さて、共通善に基づく新たな

方法について議論すべきだ。四つ目は「道徳に関与する政治」。多元的社会の市民は、道徳と宗教に関する意見は一致して中立性を保つのは不可能としても、相互的尊重に基づいた政治を行うことは、可能だと論じる。そのためには、われわれはこれまで以上にもっと活発で積極的な市民生活が必要となる。

われわれは同胞の道徳的・宗教的信念を尊重するということは、それらを無視し、それらを邪魔せず、それらにかかわらずにいることだと思い込んでいた。しかしそうした回避の姿勢は反発と反感を生じかねない。われわれは道徳的・宗教的信念を避けるのではなく、もつと直接的にそれらに注意を向けるべきだ。

三つ目は「不平等、連帯、市民道徳」。貧富の差があまりに大きいと、富裕層が公共サービスを必要としなくなり、公共の領域が空洞化することで、民主的な市民生活のよりどころである連帯とコミュニティ意識を育てることが難しくなる。不平等の公民的悪影響とそれを払拭す

に関与する政治は、回避する政治よりも希望に満ちた理想であるだけではない。公正な社会の実現をより確実にする基盤でもあるのだ。

に関与する政治は、回避する政治よりも希望に満ちた理想であるだけではない。公正な社会の実現をより確実にする基盤でもあるのだ。

注・本書はハーバード大学史

上空前の履修者数を記録したサンデル氏の超人気講義をもとにしたベストセラーだ。ハイライトでは語りきれていない内容も素晴らしい、また考えさせられるものばかりである。ぜひ本書を手に取つてこの講義にご参加いただきたい。

#### 著者情報.. マイケル・サンデル

一九五三年生まれ。ハーバード大学教授。ブランダイス大学を卒業後、オックスフォード大学にて博士号取得。専門は政治哲学。二〇〇二年から二〇〇五年にかけて大統領生命倫理評議会委員を務める。一九八〇年代のリベラル＝コミュニタリアン論争で脚光を浴びて以来、コミニタリアニズムの代表的論者として知られる。類まれなる講義の名手としても著名で、中でもハーバード大学の学部科目「Justice(正義)」は、延べ一万四千人を超す履修者数を記録。あまりの人気ぶりに、同大は建学以来初めて講義を一般公開することを決定、その模様はPBSで放送された

Copyright © 2013 Flier Inc. All Rights Reserved.

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権は株式会社フライヤーに帰属し、事前に株式会社フライヤーへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは堅く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは堅く禁じられています。